

INTERVIEW BY EDITOR IN CHIEF

アジア開発銀行
中尾武彦総裁に聞く!

THOUGHT LEADERS

春団治ラジオ出演事件と
企業家精神

FORBES ARCHIVE

「ロボット大国」日本
原点は「鉄腕アトム」

FORBES LIFE

幸せな週末のための
服、クルマ、グッズ

2014
11
No.04

定価890円

Forbes JAPAN



世界のエリートを魅了する 「米国トップカレッジ」の秘密

日本人元教官に聞いた
「海軍兵学校の文武両道教育」

起業家を次々に生み出す
「スタンフォード大学の富豪教授」

コーネル大学の夢
「NYをシリコンバレー化せよ」

COVER STORY

藤森義明

LIXILグループ社長兼CEO

「新日本的経営」
のデザイン

THE PROFESSIONAL CEO

米国流に学ぶ「プロ経営者」の神髄

千本倅生「世界に通用する経営者」5つの条件 / ザップス CEO トニー・シェイ「21世紀的組織の作り方」

アマゾン・ベゾス流「勝ち続けるリーダーシップ」とは / 「当たり前を着実に」バンカメ再建の真実

ドラッカーの予言・日本企業の弱点は「経営トップ」にある

グーグル、フェイスブック……、アメリカから時代を画す起業家が、次々と輩出される背景には、ダイナミックな「大学教育システム」がある。日本でも「産学連携」が叫ばれて久しいが、日米の違いはどこにあるのか。いま、アメリカのトップカレッジに学ぶ。

illustration by Michael Kirkham / Heart

マイケル・カーカム / ハート=イラスト



世界のエリートを魅了する米国トップカレッジの秘密

AMERICA'S 50 TOP COLLEGE



GES

ハーバード大学やマサチューセッツ工科大の名を知る人は少なくないだろう。だが、ウィリアムズ・カレッジやスワスマア・カレッジはどうだろうか？日本でも注目が高まるアメリカの大学には無名の名門校がまだ多数ある。なかでも、「リベラルアーツカレッジ」の存在はあまり知られていない。彼の国のエリートが目指す最高学府の秘密とは。



Stanford



M.I.T.

グローバル化が進み、高度に専門化する社会にあって、「世界の共通語」である英語や、高等教育の重要性が高まっている。そうしたなか、アメリカの大学の存在感は増すばかりだ。

近年は、幅広い教養科目を学べるという主旨で「リベラルアーツカレッジ」もメディアに登場するようになってきた。しかし、アメリカの大学の分類や特徴、違いへの理解は曖昧であることが多い。

実際、数あるアメリカの大学を「厳密に分類するのは容易ではない」と、海外留学の指導専門校アゴス・ジャパンで進路指導を担当する松永みどりは話す。

「たとえば、ハーバードやスタンフォードを『リベラルアーツカレッジ』とは呼ぶことはありませんが、両校とも学部生教育の理念は『リベラルアーツ』に基づいています」

17世紀、布教や識字率の向上を目的に、大学の前身となる多くの教育機関が宣教師や植民地議会によって創設された。アメリカ最古の高等教育機関とされるハーバード大学もそのひとつだ。そうした学校は幅広く教養を深めることを目的に「リベラルアーツ」が教えられた。もともと、リベラルアーツの発祥はギリシャ・ローマ時代にまで遡ることができる。修辞学・文法学・論理学の3学、

そして幾何・算術・音楽・天文学の4科からなる、いわゆる「自由七科」としてヨーロッパの大学で教え伝えられたものが、近代になって「人文科学・社会科学・自然科学」の3分野に大別されるようになった。文理の学問

を網羅して学ばせ、真のエリートを育てようというのが狙いである。

そうした歴史的な経緯もあり、アメリカの大学教育の基本は「リベラルアーツ」にある。だから、ハーバード大学もリベラルアーツカレッジとして始まっている。ただ、学生数が増え、専門研究へのニーズが高まると、多くの大学では大学院の併設が進み、「総合大学」化していく傾向にある。

その結果、ウィリアムズ・カレッジやスワスマア・カレッジのように学部生教育に注力する路線と、ハーバード大学やスタンフォード大学のように大学院を設けて専門研究



UC Berkeley

を追及する路線と、方向性が二手に分かれたのだ。とはいえ、多くの総合大学ではいまま学部でリベラルアーツ教育を続けている。たとえばハーバード大学も、学部は「ハーバード・カレッジ」と呼ばれている。つまり、「リベラルアーツカレッジ」や「総合大学」、そして各州が運営する「州立大学」などの分類に関係なく、いままアメリカの高等教育にはリベラルアーツが息

付いているのだ。

アメリカの大学の特徴のひとつに、「専攻」を比較的自由に換えられることがある。これは大学カリキュラムが、リベラルアーツ教育の流れを汲むことと無関係ではない。専門科目との割合で考えたとき、コアカリキュラム（必修科目）が多いため、途中で専攻を替えても新たに学ばなくてはならない専門科目が少なくてすむのだ。だから、専攻が自分に合わないと感じた場合、あるいは関心が変わった場合、変えやすい。

AN INTRODUCTION TO COLLEGES

エリートが目指す「リベラルアーツカレッジ」とは何か

text by Forbes Japan | illustrations by Michael Kirkham / Heart
 フォーブス ジャパン = 文 マイケル・カーカム / ハート = イラストレーション
 アゴス・ジャパン (www.agos.co.jp) / グルー・バンクロフト基金 (www.grew-bancroft.or.jp) = 取材協力

大学上位校の多くでは、出願時の専攻を入学後に変える学生の比率が6割以上ともいわれている。特に、リベラルアーツカレッジでその傾向が顕著に見られる。その理由として「在籍人数」が挙げられる。

一般的に、リベラルアーツカレッジは学生の総数がおおよそ1,000~2,000と、総合大学と比べて少なめだ。当然、1学年当たりの人数も少ない。だから、一般教養科目も少人数

で受講することができる。加えて、大学院を併設していることがあまりないため、教授の役割も学部生教育を前提にしている。物理の講義を著名な教授が担当するというのも十分にあり得るのだ。

「必修科目で思いもよらぬ素晴らしい教授に出会うこともあります。そこで、学生が専攻を変えるのです。小規模で

講義が行われるリベラルアーツカレッジの学生のほうが、専攻を変更する傾向が高いにはそうした理由があります」と、前出の松永は語る。高名な教授や仲間と活発な議論が可能になり、自然と授業は濃密なものとなる。幅広い分野の科目を学べるため、自分が本当に興味を持てる研究分野を見つけやすい。

その点、総合大学はどうしても専門教育の場である大学院に予算を割くケースが多くなる。高名な教授も学部生教育よりも自分の研究に専念できる大学院に集まりがちだ。

「リベラルアーツカレッジの学生には、もの

ごとを総合的な観点から考え、自分の考えをきちんと発信できる人が多い」と、リベラルアーツカレッジへ進学する日本の学生に奨学金を提供している「グルー・バンクロフト

基金」の松本健常務理事は指摘する。

「ディベートなどでも、相手を打ち負かそうとするのではなく、建設的に議論を組み立てていく能力を身につけています」

また松永は、「アメリカでは、知名度の高い総合大学出身者と

遜色ない『発信力』を持っています」と語る。

事実、アメリカのエリートには、リベラルアーツカレッジ出身者が多数いる。ヒラリー・クリントン前国務省長官もウェルズリー大学を卒業してイェール・ロースクールへ進学し

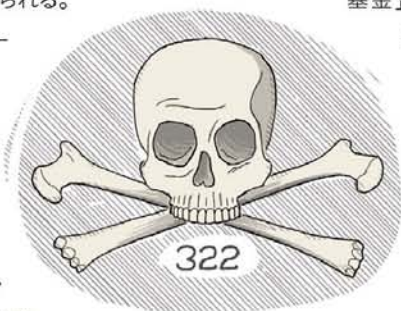
ている。世界的半導体メーカー「インテル」の共同創業者である故ロバート・ノイスもグリネル・カレッジを経てMITへ進んでいる。

いまのアメリカは高学歴社会ということもあり、学部卒の肩書きだけでは職に就きにくい。

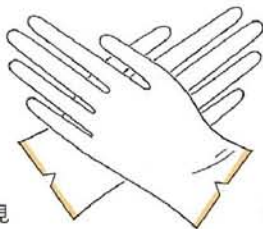
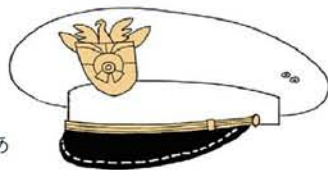
リベラルアーツカレッジから総合大学の大学院へ進学するのも、ひとつのキャリアとして定着しつつある。

社会が成熟すれば、自然と学問の専門性は高まる――。

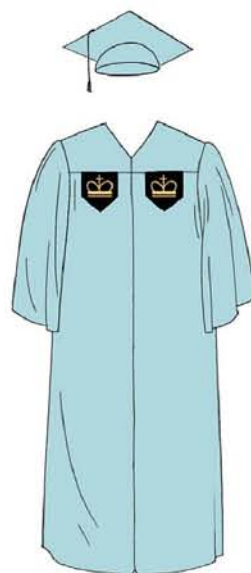
リベラルアーツと専門性の高い研究分野のいずれをも学べる環境にあるのが、アメリカ大学教育の最大の魅力といえよう。⑤



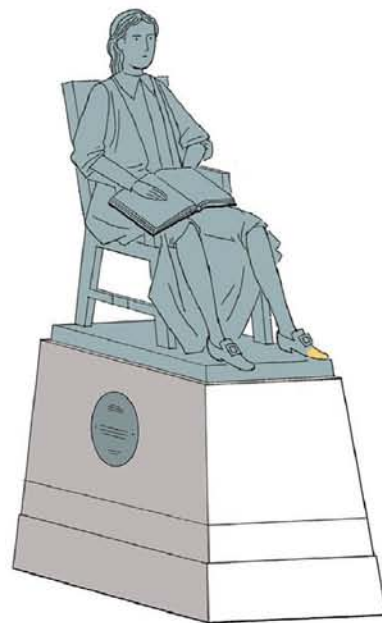
Yale



Westpoint



Columbia
& Barnard



Harvard